

ハブクラゲに 気をつけよう!



ハブクラゲってどんな生物?



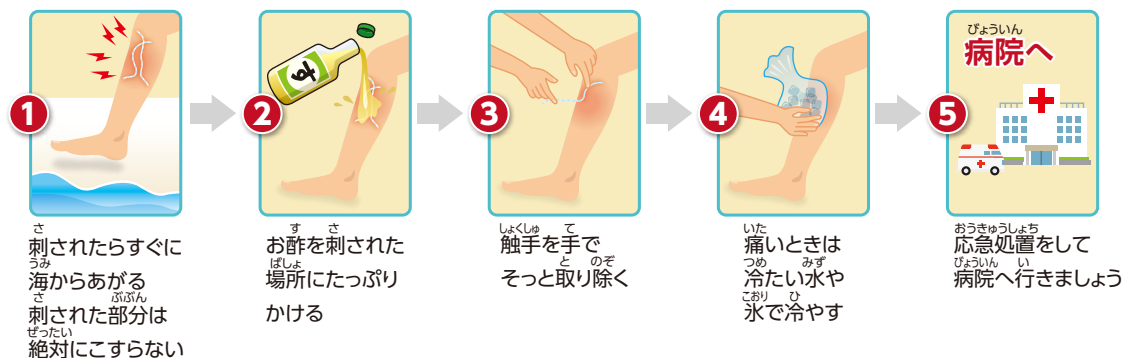
ハブクラゲは5月から10月ごろに沖縄の海
にいる大きなクラゲです。半透明な頭と、た
くさんの長い手を持っていて、頭の部分をカサ、
たくさんの手を触手と呼びます。

長い触手は強い毒の針を持っていて、とても
危険です。触手に刺されるととても痛く、た
くさん刺されると、命の危険もあります。

◆ 刺されたらどうすればいいの？

刺されたら、刺された場所をこすったりせず、海から出て助けを呼びましょう。刺された場所に酢をたくさんかけて触手をそっと取り除いてください。痛みがあれば冷たい水や氷で冷やしましょう。

触手を取り除いた後は、病院へ行きましょう。



※【保護者の方へ】
呼吸や心臓が止まった場合は、すぐに人工呼吸や心臓マッサージを行いましょう。

◆ 刺されないためにはどうすればいいの？

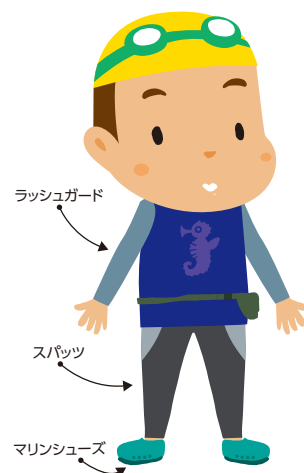
クラゲネットの中で泳ぎましょう

沖縄のビーチには、ハブクラゲが入ってこられないようにネットを設置してある場所があります。ハブクラゲに刺されないためには、ネットの内側で泳いだり遊んだりしましょう。



長そで、長いスパッツなどを着て泳ぎましょう

ラッシュガードや長そでシャツ、スパッツなどを着て、肌をできるだけ出さないようにしましょう。ハブクラゲに刺されても何か着ていれば毒針が皮フまで届かないので、刺される場所が少なくなります。



◆ ハブクラゲってどこにいるの？

沖縄の海のいろいろな場所にいて、深さ50センチほどの浅い場所でも泳いでいます。ハブクラゲは半透明なので、海の中ではなかなか見つかりません。



ハブクラゲが見えるかな？

◆ 保護者の方へ

ハブクラゲなどの海の危険生物、クラゲネットの情報などについて、詳しくはこちらをごらんください。



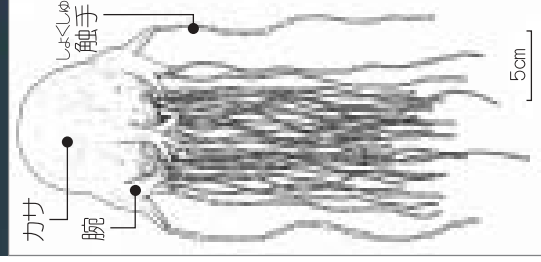
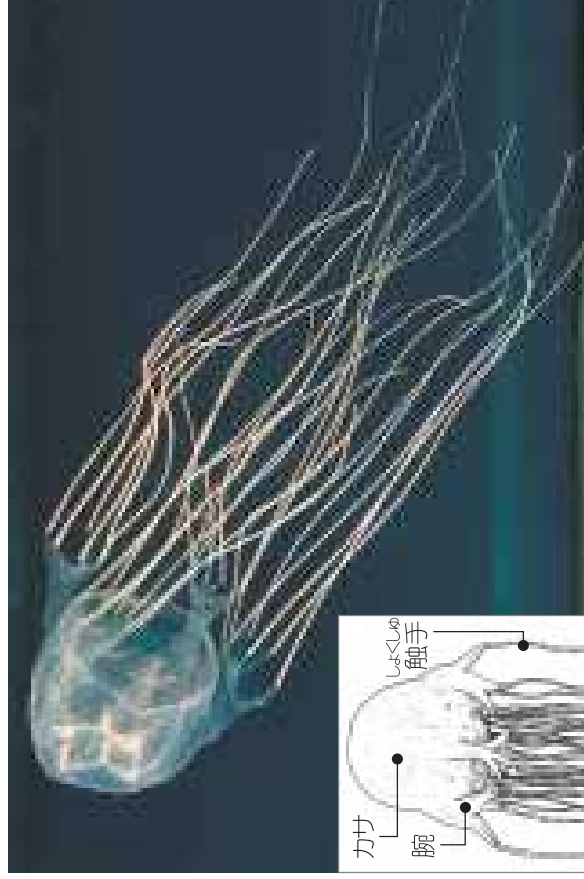
ハブクラゲについてのお問い合わせ

沖縄県 保健医療部 衛生薬務課
衛生環境研究所(衛生科学班)

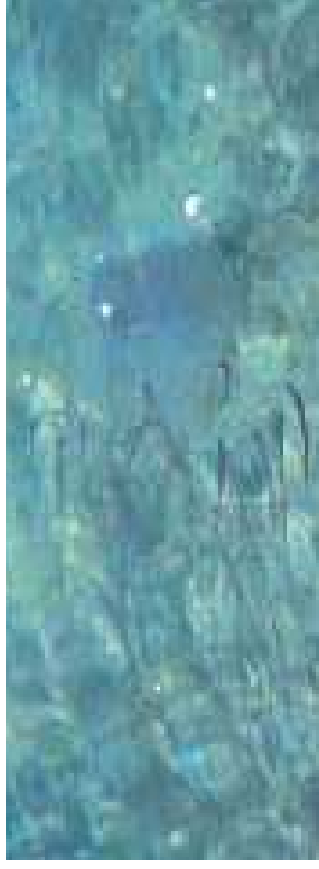
☎098-866-2055
☎098-987-8223

ハブクラゲ

5 ～10月頃に発生するクラゲです。県内ほぼ全域に分布しています。水深50cmほどの浅い場所にもぎます。刺されるととても痛く、ショックを起こすこともあります。これまでに3人の死亡者がいます。ハブクラゲが大きくなる7月～9月に被害が多くなります。



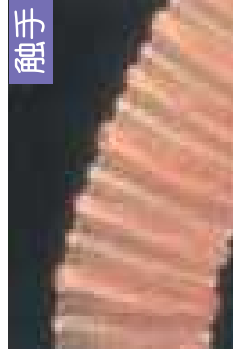
しよくしゆ
触手はエサをつかまえるために使います。カサからは4本の腕が出て、そこからひも状の触手が伸びています。成長すると、カサの高さが10cm以上、のびちぢみする触手は150cm以上になることもあります。



カサが半透明なので見つけにくいクラゲです。

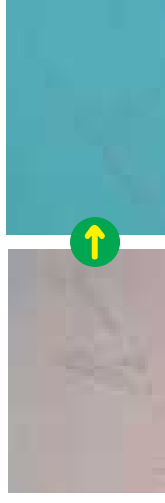
しよくしゆ しほう

触手には刺胞（毒針と毒液が入ったカプセル）がたくさんあり、何かに触れると毒針が飛び出し、毒を注入します。



触手

↓ 刺激すると…



刺胞
毒針が飛び出た刺胞

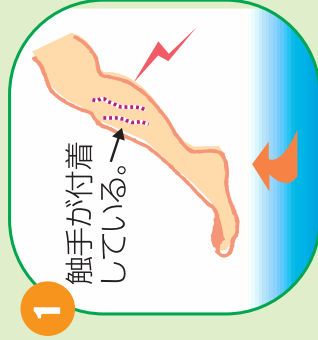


刺傷例

たくさんの毒針が飛び出しています。

応急処置 (ハブクラゲ)

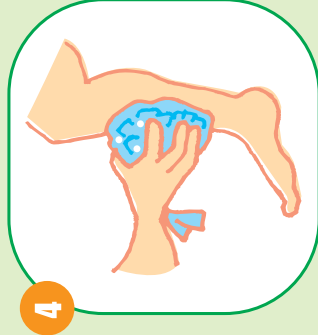
- ① 刺されたらすぐに海からあがる
刺された部分は絶対にこすらない
- ② 酢 (食酢) をたっぷりかける
- ③ 触手を手でそと取り除く
- ④ 痛いときは氷や冷水で冷やす



2



4



呼吸や心臓が止まった場合は、すぐに人工呼吸、心臓マッサージを行う

ハブクラゲに刺されないためには・・・

- クラゲネットの中で泳ぐ (裏表紙)。
- クラゲネットがない場所では、ウェットスーツや長そでTシャツ、スパッツなどを着用し、肌の露出を少なくする (刺されても毒針が皮フまでとどきません)。

※ 完全に被害を防げるわけではなく、被害を最小限にできるということです

刺された時のために・・・

- 応急救置法をおぼえておく
- 近くの病院を確認しておく

なぜ酢がいいの？

- 触手にはたくさん刺胞があるので、ちよつとさわっただけでは全部の刺胞は発射されません。ですから、ハブクラゲに刺されたところに触手がくっついていている時は、絶対にこすったりしてはいけません。こするとそれが刺激となって、残っている未発射の刺胞が発射して傷が広がってしまいます。酢には刺胞の発射を止めるはたらきがあります。そのために応急救置に使うのです (アルコール類では刺胞の発射を止めることはできません)。残念なことに、酢が役立つのはハブクラゲだけで、カツオノエボシやウンバチイソギンチャクなどは、逆に刺胞を発射させてしまうこともあります。